

平成 30 年度

第 3 回

上越市地域公共交通活性化協議会  
議案書

日 時	平成 30 年 11 月 28 日 (水) 午後 1 時 30 分から
会 場	上越市役所 4 階 401 会議室



## 地域公共交通確保維持改善事業費補助金に係る事業評価について

### 1 要旨

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱第3条第5項及び実施要領に基づき当協議会が実施する地域公共交通確保維持事業及び地域公共交通調査等事業について、効果的かつ効率的に事業を推進するため、補助金交付要綱の規定に基づき、実施状況の確認及び目標達成状況等の評価を行うもの。

### 2 補助金名称

地域公共交通確保維持改善事業費補助金

※参考：補助金交付要綱第1条

「この補助金は、生活交通の存続が危機に瀕している地域等において、地域の特性・実情に最適な移動手段が提供され、また、バリアフリー化やより制約の少ないシステムの導入等移動に当たっての様々な障害の解消等がされるよう、地域公共交通の確保・維持・改善を支援することを目的とする。」

### 3 評価対象事業

- ・ 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金（評価対象：H29.10～H30.9）
- ・ 地域公共交通再編推進事業（再編計画推進事業）（評価対象：H30.4～H31.3）

### 4 事業評価（次頁）

#### 【資料】

- ・ 地域内フィーダー系統路線図……………資料1（資料P1～P12）
- ・ 平成30年度公共交通利用促進事業（補助対象事業）……………資料2（資料P13～P15）

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 上越市地域公共交通活性化協議会  
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

評価の基準(A、B、Cの3段階評価。基準は下記のとおり)  
 A: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施された(目標を達成した)  
 B: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(目標を達成できていない点があった)  
 C: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(目標を達成できなかった)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
頸北観光バス(株)	運行路線: 黒岩線(2) 柿崎バスターミナル～下灰庭・米山寺～黒岩	鉄道(柿崎駅)や幹線系統への接続に配慮したダイヤを設定することで、高齢者を中心に利用者の移動手段を維持確保した。また、お得な定期情報等を記載したチラシを配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおりに、適切に実施された。	B 目標: 運送収入前年比△10.4%以下に対して実績△11.9%(未達成) 事業効果: 路線維持により、沿線高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保(達成) 目標未達成の分析: 高齢者を中心に利用者が減少。(現金収入44千円減)	鉄道や幹線系統への接続に配慮したダイヤを維持することで、高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。また、柿崎区総合事務所と連携し、お得な定期情報等を事務所だよりやチラシに掲載・配布し利用促進を図る。
東頸バス(株)	運行路線: 安塚線 うらがわら駅前～虫川大杉駅前～保健センター前	鉄道への接続に配慮したダイヤを設定し、学生を中心に利用者の移動手段を確保した。新高校1年生に啓発資料を配布し利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおりに、適切に実施された。	B 目標: 運送収入前年比△2.0%以下に対して実績△10.7%(未達成) 事業効果: 路線維持により、沿線住民及び学生等の移動手段を確保(達成) 目標未達成の分析: 高田高校安塚分校へ通学する利用者が減少。(回数券・期券収入338千円減)	鉄道への接続に配慮したダイヤを維持することで、学生を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。また、新高校1年生を対象とした啓発資料や降雪期に公共交通の利用を促す啓発資料を配布し、利用促進を図る。
くびき野バス(株)	運行路線: 島田線 高田駅前～岡原～曾根田	鉄道(高田駅)や幹線系統への接続に配慮したダイヤを設定し、沿線住民の移動手段を維持確保した。市内の高校に通う学生を中心に、啓発資料等を配布して利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおりに、適切に実施された。	A 目標: 運送収入前年比△3.7%以下に対して実績7.9%(達成) 事業効果: 路線維持により、沿線住民の通勤・通学、通院などの移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した要因: 高校生を中心に利用者が増加(現金収入104千円増、定期収入101千円増)	引き続き、鉄道や幹線系統への接続に配慮したダイヤを維持することで、沿線住民の移動手段の維持確保に努める。新高校1年生を対象とした啓発資料や降雪期に公共交通の利用を促す啓発資料を配布し、利用促進を図る。

2

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 上越市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
頸城自動車(株)	運行路線:佐内・直江津循環線 直江津駅前～労災病院前～佐内入口	鉄道(直江津駅)や幹線系統への接続に配慮したダイヤを設定し、高齢者を中心に利用者の移動手段を維持確保した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 目標:運送収入前年比△2.4%以下に対して実績△9.4%(未達成) 事業効果:路線維持により、沿線高齢者を中心に通院及び買い物等の移動手段を確保(達成) 目標未達成の分析:大雨・大雪による運休(18日間、101便)による収入減や高齢者を中心に利用者が減少。(現金収入94千円減)	鉄道や幹線系統への接続に配慮したダイヤを維持することで、高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。お得な定期情報等を掲載した高齢者向けの啓発資料を労災病院へ設置し、利用促進を図る。
アイエムタクシー(株)	運行路線:岡沢ルート 新井バスターミナル～中郷区総合事務所前～岡沢	H29.12.1からの新設便(通院、買物利用向け)について、沿線住民に周知チラシを配布し、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標:運送収入前年比△11.0%以下に対して実績7.0%(達成) 事業効果:路線維持により、沿線の中学生の通学や高齢者の通院等の日常生活に必要な移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した要因:H29.12月に、中学生の通学に合わせたダイヤに変更するとともに、通院・買物利用者向けにダイヤを変更したことにより利用者が増加(前年度比544人増)	鉄道や幹線系統への接続、通学に配慮したダイヤを維持することで、沿線の中学生や高齢者を中心に利用者の移動手段の維持確保に努める。
東頸バス(株)	運行路線:月影・下保倉・末広ルート(1)、月影・下保倉・末広ルート(2) うらがわら駅～浦川原区中心部～谷 運行路線:上柿野ルート うらがわら駅～上柿野～うらがわら駅 運行路線:小麦平ルート うらがわら駅～小麦平～うらがわら駅	小学校の登下校時間、鉄道(うらがわら駅)との接続に配慮したダイヤを設定し、小学生を中心に沿線住民の移動手段を維持確保した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標:運送収入前年比△13.1%以下に対して実績51.2%(達成) 事業効果:路線維持により、沿線の小学生や高齢者を中心に通学、通院及び買い物等の移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した要因:H29.4月に実施された小学校統合に伴う再編により、沿線小学生を中心に利用者が増加(前年度比1,769人増)	引き続き、小学生の登下校時間、鉄道との接続に配慮したダイヤを維持することで、小学生や高齢者を中心に沿線住民の移動手段の維持確保に努める。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 上越市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
くびき野バス(株)	運行路線:真砂・岡田線 高田駅前～真砂寺前～北坪山上	鉄道(高田駅)との接続に配慮したダイヤを設定し、沿線住民の移動手段を維持確保した。市内の高校に通う学生を中心に、啓発資料を配布して利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 目標:運送収入前年比18.7%以上に対して実績△22.1%(未達成) 事業効果:路線維持により、沿線住民及び学生等の移動手段を確保(達成) 目標未達成の分析:学生を中心に定期的な利用者が減少。(回数券・定期券収入346千円減) 本目標は過去3年(H26・H27・H28)の収入増減率の平均値で設定しているが、H27.4月に実施された再編により運送収入が大幅に増収し、平均値を引き上げることとなり、目標設定が過大になった。(対前年比では△22.1%であるが、再編前(H26:1,012千円)と比較すると、41.7%の増収となっている。)	鉄道との接続に配慮したダイヤを維持することで、沿線住民の移動手段の維持確保に努める。また、新高校1年生を対象とした啓発資料や降雪期に公共交通の利用を促す啓発資料を配布し、利用促進を図る。
頸城自動車(株)	運行路線:直江津・浦川原線(2) マルケーバスセンター～青野十文字～保倉川橋	鉄道(直江津駅及びうらがわら駅)との接続に配慮したダイヤを設定し、沿線住民の移動手段を維持確保した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標:運送収入前年比1.5%以上に対して実績7.3%(達成) 事業効果:路線維持により、沿線住民の通学・通勤利用等の移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した理由:沿線の高齢者や通勤者を中心に利用者が増加(回数券収入145千円増)	引き続き、鉄道、幹線系統との接続に配慮したダイヤを維持することで、沿線住民の移動手段の維持確保に努める。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 上越市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
東頸バス(株)	運行路線:大平線(1) 浦川原小学校前～虫川大杉駅前～大島コミュニティプラザ前	小学生の登下校時間、幹線系統との接続に配慮したダイヤを設定し小学生を中心に沿線住民の移動手段を維持確保した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標:運送収入前年比△10.4%以下に対して実績6.9%(達成) 事業効果:路線維持により、沿線住民及び学生等の移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した要因:H29.4月に実施された小学校統合に伴う再編により、小学生を中心に利用者が増加(前年度比1,688人増、大平線(2)含む)	引き続き、小学生の登下校時間、幹線系統との接続に配慮したダイヤを維持することで、小学生を中心に沿線住民の移動手段の維持確保に努める。
東頸バス(株)	運行路線:大平線(2) 浦川原小学校前～虫川大杉駅前～小谷島	小学生の登下校時間、幹線系統との接続に配慮したダイヤを設定し小学生を中心に沿線住民の移動手段を維持確保した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標:前年度の運送収入前年比△8.3%以下に対して実績45.6%(達成) 事業効果:路線維持により、沿線の住民及び学生等の移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した要因:H29.4月に実施された小学校統合に伴う再編により、小学生を中心に利用者が増加(前年度比1,688人増、大平線(1)含む)	引き続き、小学生の登下校時間、幹線系統との接続に配慮したダイヤを維持することで、小学生を中心に沿線住民の移動手段の維持確保に努める。
上越市	運行路線:名立区自家用有償運送(系統4) うみてらす名立前～ろばた館前～東飛山  運行路線:名立区自家用有償運送(系統5) コミュニティプラザ前～ろばた館前～東飛山  運行経路:名立区自家用有償運送(系統6) コミュニティプラザ前～名立駅前～宝田小学校前	小中学生の登下校時間、幹線系統との接続に配慮したダイヤを設定し、小中学生を中心に沿線住民の移動手段を維持確保した。また、公共施設(ろばた館)との提携やチラシを配布し、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標:運送収入前年比△3.0%以下に対して実績8.2%(達成) 事業効果:路線維持により、沿線住民及び学生等の通学や通院などの移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した要因:H29.4月に実施した路線の再編により便数が増加したため利用者が増加(運送収入78千円増)	引き続き、小中学生の登下校時間に配慮したダイヤを維持することで、小中学生を中心に沿線住民の移動手段の維持確保に努める。公共施設との提携やチラシを配布し、利用促進を図る。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 上越市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
頸北観光バス(株)	<p>運行路線:吉川西部循環線(系統1:吉川くびき駅線) 吉川中学校・吉川区総合事務所前～くびき駅前～吉川区総合事務所前・吉川中学校</p> <p>運行路線:吉川西部循環線(系統2:上下浜駅線) 吉川区総合事務所前～上下浜駅前～吉川区総合事務所前・吉川中学校</p>	<p>学生の登下校時間、鉄道(上下浜駅、くびき駅)との接続に配慮したダイヤを設定し、学生を中心に沿線住民の移動手段を維持確保した。吉川中学校の課外活動の終了時刻に合わせ、季節ダイヤの切替時期を変更した。(11月から10月に切替時期を変更)</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A 目標:運送収入前年比△8.0%以下に対して実績17.2%(達成) 事業効果:路線維持により、沿線住民及び学生等の通学や通院などの移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した要因:H29.4月に実施した路線の再編により吉川高等特別支援学校の生徒を中心に利用が増加したため。(定期券収入794千円増)</p>	<p>引き続き、学生の登下校時間、鉄道との接続に配慮したダイヤを維持することで、学生や沿線住民の移動手段の維持確保に努める。</p>
くびき野バス(株)	<p>運行路線:青柳線(下稲塚経由) 高田駅前～中央病院・下稲塚～青柳</p> <p>運行路線:青柳線(松野木経由) 高田駅前～中央病院・松野木～青柳</p>	<p>鉄道(高田駅)や幹線系統との接続に配慮したダイヤを設定し、沿線住民の移動手段を維持確保した。また、中央病院に高齢者を対象とした啓発資料を設置し利用促進を図った。病院・商業施設への乗り入れによる効果検証のための乗降調査を実施した</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A 目標:運送収入前年比△6.6%以下に対して実績12.3%(達成) 事業効果:沿線住民及び学生等の通学や通院などの移動手段を確保(達成) 収益が大きく改善した要因:H29.4月に実施した商業施設・中央病院への乗り入れや、利用促進により高齢者を中心に利用者が増加(現金収入358千円増)</p>	<p>引き続き、鉄道・幹線系統との接続に配慮したダイヤを維持することで、沿線住民の移動手段の維持確保に努める。中央病院に高齢者向け啓発資料を設置し利用促進を図る。</p>



## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議会名:	上越市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	上越市では、鉄道(えちごトキめき鉄道妙高はねうまライン及び日本海ひすいライン、JR東日本信越本線、北越急行ほくほく線)のほか、当市と周辺自治体、また、鉄道のない郊外エリアと市街地を結ぶ一部の幹線的バス系統を、公共交通ネットワークの骨格に位置付け、その他の路線バス系統やコミュニティバス(市町村運営有償旅客運送)を支線として幹線と接続させることで、効率性を考慮しながらも、使い勝手のよい階層的な公共交通ネットワークの構築を進めるとともに、生活交通の維持・確保がなされるよう、既存の路線バス等について、地域の実情を踏まえた運行形態へと見直しを進めた。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（計画推進に係る事業）

平成 年 月 日

協議会名：上越市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域公共交通再編推進事業（再編計画推進事業）

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>①総合時刻表の作成 市内の路線バスや鉄道などの運行時刻や運賃、路線図など公共交通に関する情報をまとめ、市内全戸に配布する予定。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施する予定（平成31年3月作成予定）</p>	<p>市内の路線バスや鉄道などの運行時刻や運賃に関する情報をまとめ、より見やすく、分かりやすい時刻表となるよう改善を図る予定。</p>
<p>②啓発資料の作成 地域公共交通の利用を促す啓発資料を作成し、配布する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【イベント時等に配布する公共交通啓発資料】 バスの日フェスタ開催時等に配付する啓発資料を作成し、配布した。</li> <li>・【降雪期前の通勤・通学者へ配布する公共交通啓発資料】 降雪期の通学・通勤者へのバス利用を促す内容の啓発資料を作成し、学生等に配布する予定。</li> </ul>	<p>A  <ul style="list-style-type: none"> <li>・【イベント時等に配布する公共交通啓発資料】 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施した。（平成30年9月作成済み）</li> <li>・【降雪期前の通勤・通学者へ配布する公共交通啓発資料】 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施する予定（平成30年12月作成予定）</li> </ul> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【イベント時等に配布する公共交通啓発資料】 引き続き、小学生が親しみやすく、分かりやすい資料に改善していく。</li> <li>・【降雪期前の通勤・通学者へ配布する公共交通啓発資料】 引き続き、通勤・通学における公共交通のお得情報の充実やより分かりやすい資料とする改善を図る予定。</li> </ul>
<p>③高校生や高齢者を対象としたリーフレットの作成 地域公共交通の主な利用者である高校生及び高齢者の利用促進を図るため、啓発資料を作成し、配布する予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【高校等新入生を対象とした公共交通啓発資料】 高校等新入生を対象としたパンフレットを作成し、配布する予定。</li> <li>・【高齢者を対象とした公共交通啓発資料】 高齢者を対象としたパンフレットを作成し、配布した。</li> </ul>	<p>A  <ul style="list-style-type: none"> <li>・【高校等新入生を対象とした公共交通啓発資料】 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施する予定（平成31年2月作成予定）</li> <li>・【高齢者を対象とした公共交通啓発資料】 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施した（平成30年9月作成済み）</li> </ul> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【高校等新入生を対象とした公共交通啓発資料】 高校等新入生に対し、通学手段の一つとして公共交通を利用いただけるよう、引き続き、高校生等が親しみやすく感じる内容を掲載する予定。</li> <li>・【高齢者を対象とした公共交通啓発資料】 引き続き、公共交通のお得情報の掲載や、より見やすく、わかりやすい資料とする改善を図る。</li> </ul>
<p>④路線別の大文字時刻表の作成 地域（合併前上越市、13区）ごとに路線バスの時刻やお得な切符情報等を記載したチラシを作成し、配布する予定。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施する予定（平成31年3月までに作成予定）</p>	<p>各地域の路線情報や路線バスの利用を促す内容の記事を掲載するなど、引き続き、記載内容の充実を図る予定。</p>

## 次期上越市総合公共交通計画の策定について

## 1 要旨

次期上越市総合公共交通計画の策定に当たり、平成30年6月11日から7月28日に実施した「路線バスの乗降調査」の全体の集計結果を報告するとともに、今後、路線ごとの分析を実施するに当たり留意すべき事項等について意見をうかがうもの。

## 2 調査対象路線

No.	路 線	No.	路 線
1	上越大通り線	23	大島区市営バス(旭線)
2	教育大学線	24	大島区市営バス(菖蒲線)
3	春日山・佐内線	25	宮口線
4	上越病院線	26	牧区市営バス(高谷線)
5	富岡線	27	牧区市営バス(平山線)
6	増田線	28	牧区市営バス(坪山線)
7	桑取線	29	上直海線
8	山麓線	30	森本線
9	佐内・直江津循環線	31	黒井駅線
10	謙信公大通り線	32	犀潟駅線
11	謙信公大通り循環線	33	くびき駅線
12	春日山駅・アルカディアシャトル便	34	柳町線
13	中央病院線	35	頸城区市営バス
14	安塚線	36	山直海線
15	安塚区市営バス(須川・伏野線)	37	泉谷・勝穂循環線
16	安塚区市営バス(船倉線)	38	青柳線
17	安塚区市営バス(坊金線)	39	高田・浦川原線
18	安塚区市営バス(行野線)	40	真砂・岡田線
19	安塚区市営バス(朴の木線)	41	水科・今保線
20	安塚区市営バス(袖山線)	42	名立線
21	小麦平ルート	43	能生線
22	上柿野ルート		

※43路線54系統(上下線別)を調査



# 「路線バスの乗降調査」調査結果概要について

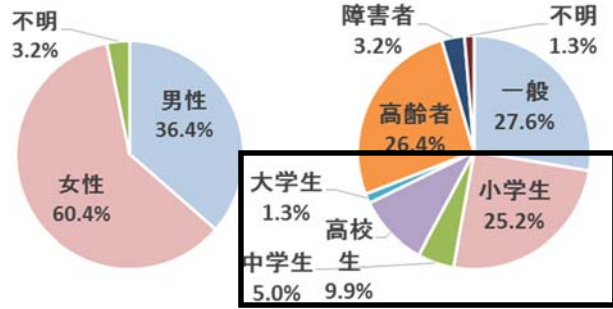
## 1 調査の概要

- (1) 目的 平成 32 年度からの次期総合公共交通計画の策定に当たり、市内路線バスの利用状況を把握するために乗降調査を実施し、検討の参考とするため。
- (2) 調査路線 65 路線 87 系統のうち、路線再編時に調査を実施(平成 29 年 2 月から平成 30 年 5 月)した路線を除く 43 路線 54 系統(上下線別)を調査
- (3) 実施期間 平成 30 年 6 月 11 日(月)～7 月 28 日(土)
- (4) 実施方法
  - ア 調査員は、2 人 1 組で調査対象路線のバスに乗車し、乗降先、利用頻度等、聞き取り調査を実施
  - イ 路線当たりの調査は、平日 2 日、土曜 1 日の計 3 日間実施(土日運休の路線は平日 2 日間の実施)
- (5) 乗降者数 5,932 人(平日 4,995 人、土曜 937 人)

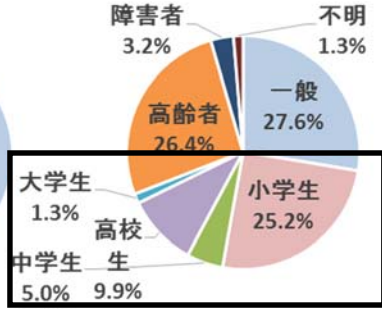
## 2 調査結果

### (1) 全体概要

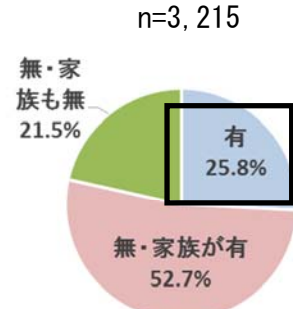
#### ア 性別



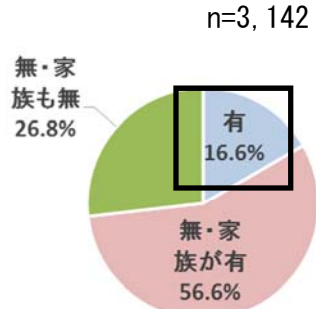
#### イ 利用者内訳



#### ウ 運転免許の保有



#### エ 自動車・バイクの保有の有無

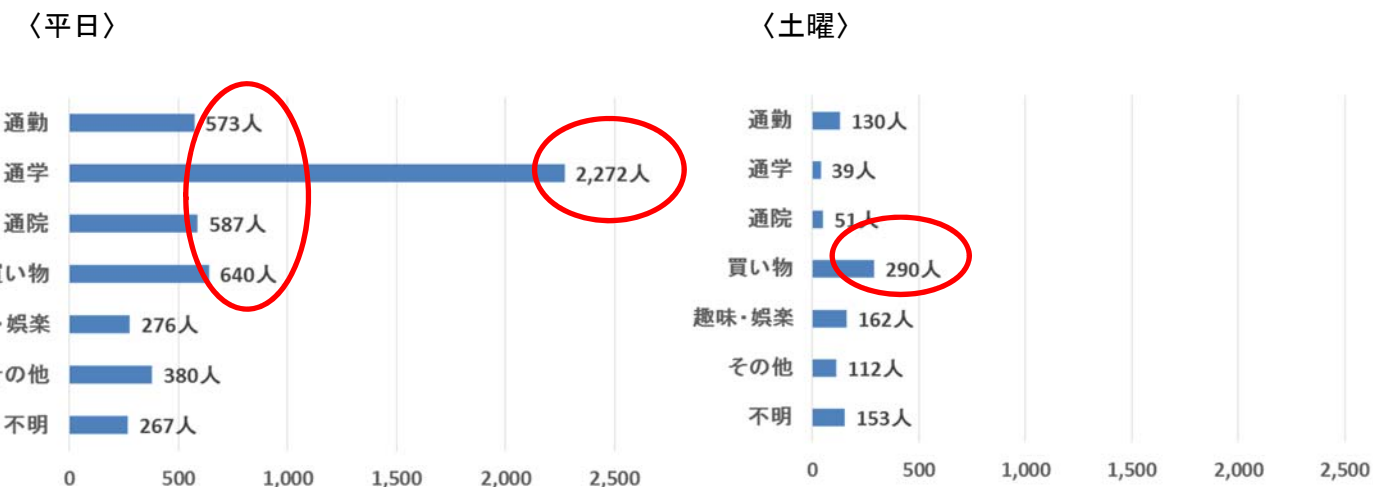


○学生(小、中、高、大学生)の利用者が 41.4%と最も多く、特に小学生の利用が多い結果となった。  
 ○自動車・バイクを保有していない人が利用者であることは想定していたが、運転免許、自動車・バイクともに保有しながら、利用している人もいた。⇒聞き取り時の確認では、会社の規則で公共交通を利用して通勤する人であった。

### (2) 乗車内訳

※乗車数は平日 2 日間、土曜 1 日の人数 平日 349 便 土曜 162 便

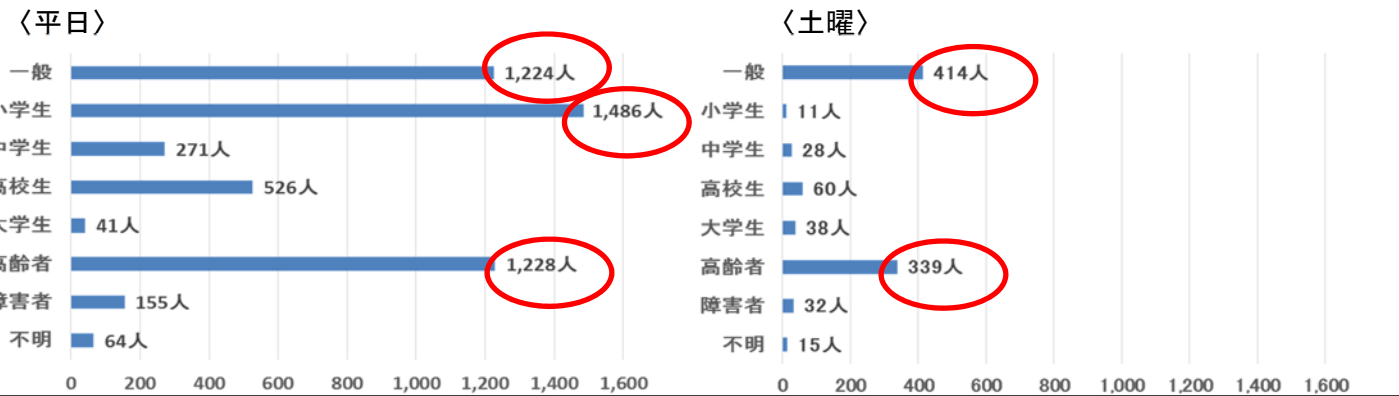
#### ア 利用目的別乗車数



#### イ 時間帯別乗車数



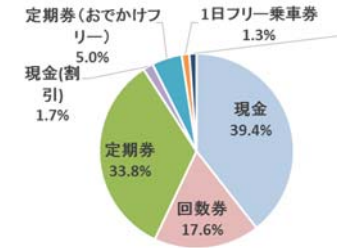
#### ウ 属性別乗車数



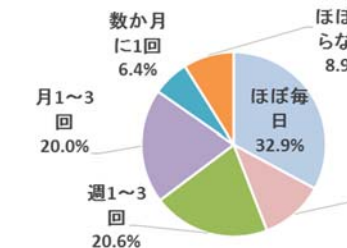
○利用目的別乗車数では、平日は通学利用が最も多く、土曜は買い物利用が多い結果となった。また、平日の通勤利用は、通院利用、買い物利用と同じくらいの利用者がおり、通勤でバスを利用する人が一定数いることがわかった。  
 ○時間帯別乗車数では、平日は 7 時台の利用が圧倒的に多く、通学・通勤時間帯と重なるため、利用者が多い結果となった。また、土曜は時間帯の偏りがほとんど見られず、どの時間帯も均等に利用されていた。  
 ○属性別乗車数では、平日は通学で利用する小学生が多く、一般(小学生、高齢者等の属性から外れる方)は高齢者と同程度の利用があった。クロス集計の結果、一般の利用者は主に通勤で利用していた。また、土曜は、高齢者よりも一般の利用者が多くなり、クロス集計の結果、通勤のほか、買い物でも多く利用している人がいることがわかった。

### エ 支払方法

#### ア 支払方法内訳 n=5,192



#### イ 利用頻度 n=3,707



○クロス集計の結果、利用頻度が多い人ほど、回数券や定期券での支払いを行う傾向にあった。  
 ○おでかけフリー定期券や 1 日フリー乗車券といったお得な乗車券を使用している人は、6.3%しかなく、市民アンケートを裏付ける結果となった。  
 ⇒利用頻度や移動距離によっては、これらのお得な乗車券を利用することにより、支払の負担が少なくなるため、バス利用者への周知と利用促進を行っていく必要がある。

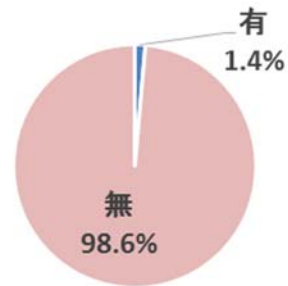


(3) 意見・要望

ア 運行経路、ダイヤ、運賃の希望

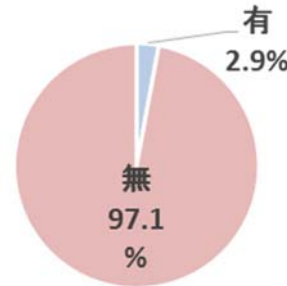
〈希望経路地の希望の有無〉

n=2,855



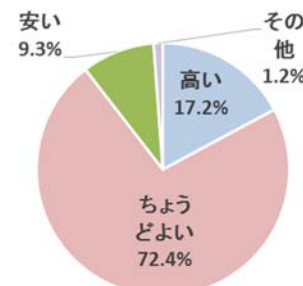
〈運行ダイヤの希望の有無〉

n=2,781



〈運賃の感覚〉

n=2,040

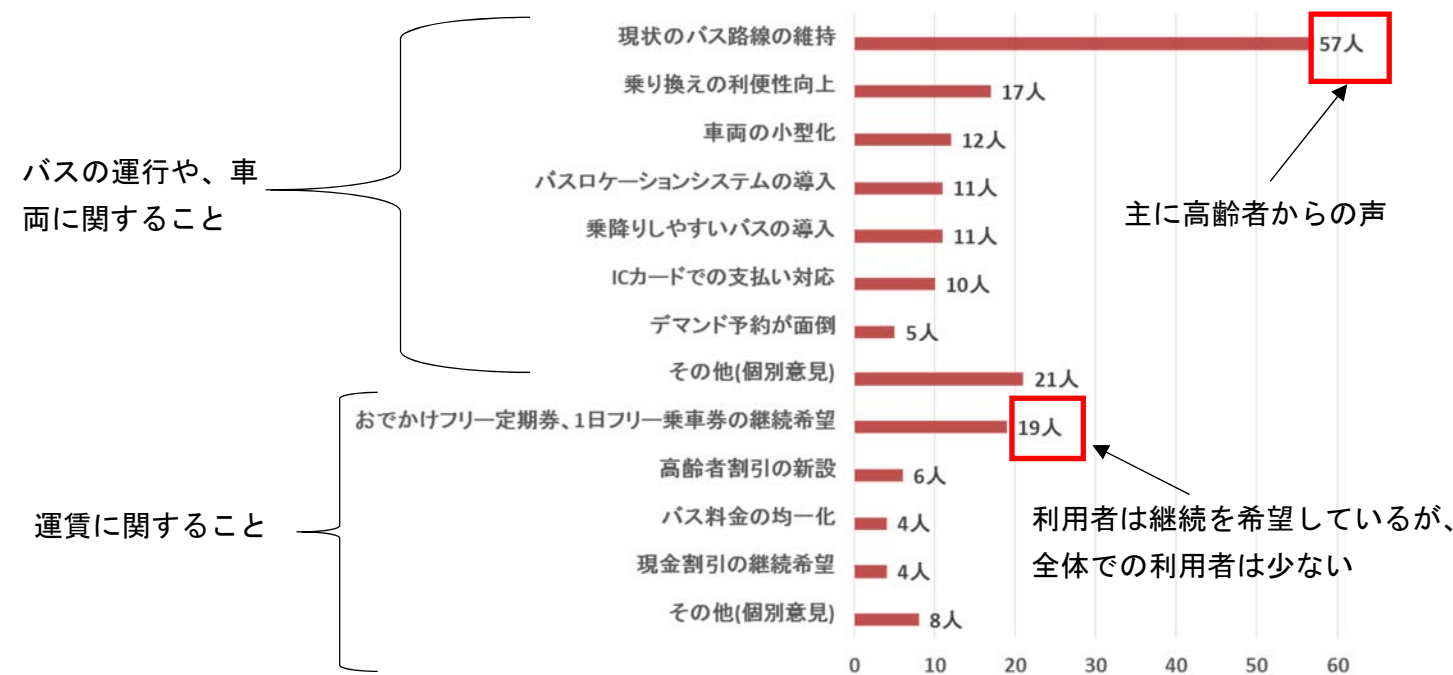


○運行経路やダイヤの希望がほとんど無いことから、現行の経路、ダイヤについては利用者の満足度が高いと思われる。また、運賃もちょうどよい、安いと感じる人が8割を超える結果となり、現行の運賃について一定の理解を得ているものと思われる。

○少数意見として、高田・浦川原線において、高田高校安塚分校の利用者から、高校まで乗り換え無しで登校したいとの意見があったほか、乗り換えの待ち時間を短くしてほしいとの意見があった。また、上越大通り線、青柳線などの一部の利用者から運賃が高いとの意見があり、いずれも乗車距離の長い利用者からの意見であった。(利用者は月1~3回、数か月に1回程度の利用頻度であり、ほとんどが現金払いであった。)

⇒ダイヤに関する意見は、運行事業者に伝え、次期ダイヤ改正で対応を検討していただくとともに、その他の意見については、路線再編や利用促進の参考とする。

イ 自由意見 n=185



○現状の路線バスを維持してほしいという要望が最も多く、特に高齢者からの意見が多かった。また、高齢者からは、ステップが低い乗降りしやすいバスを導入してほしいとの意見もあった。

○運賃では、おでかけフリー定期券、1日フリー乗車券が便利かつ購入金額が安いから、今後も継続してほしいとの意見が最も多い結果となったが、支払方法の内訳では利用者全体の6.3%しかいないことから、制度の周知・PRなどで、更なる利用促進を行う必要がある。

⇒今回の意見は、バス事業者と情報を共有し、利用者にとってより利用しやすい環境を整備していく必要がある。

3 集計・分析方法

(1) 路線別集計

路線別に集計表を作成し、分析を行う。

(2) 調査結果の分類

路線ごとの傾向を下記のとおり分類し、再編の方向性を検討する。

I OD表からわかる傾向

パターン	路線の傾向	傾向の分析	検討の方向性のポイント
A	利用時間帯に偏りがある	朝、夕の時間帯のみ利用が多い	・利用の多い時間帯の定時定路線化 ・利用の少ない時間帯のダイヤ見直し、減便、デマンド運行への変更
B	利用区間に偏りがある	〇〇停留所～□□停留所間の利用が多い	・利用の多い区間のルートの維持 ・利用の少ない区間のルート見直し、バス停の位置の見直し、フリー乗降への変更
C	どの時間帯もほとんど利用がない	利用者がいなく、グラフに活発な動きがみられない	・ルートの見直し、バス停の位置の見直し、フリー乗降への変更 ・デマンド運行、減便、廃止等を検討
D	朝、昼、夕どの時間帯も利用がある	利用者があり、グラフに活発な動きがある	更なる利便性向上を検討(ダイヤ、ルート調整等)

II 利用目的からわかる傾向

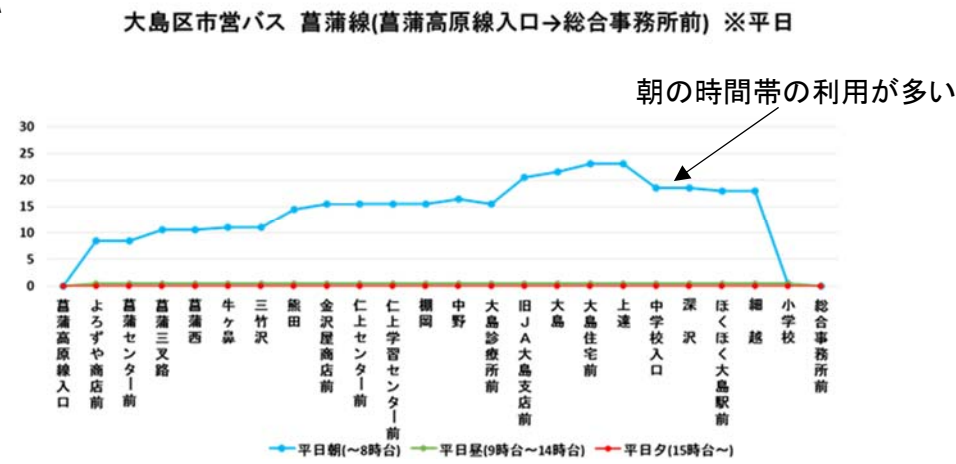
パターン	路線の傾向	傾向の分析	検討の方向性のポイント
ア	利用目的に偏りがある	通学利用に偏っている	朝、夕の時間帯のみの運行等、利用の多い目的に重点を置き再編を検討
イ	利用目的に偏りが無い	どの利用目的でも利用がある	更なる利便性向上を検討(ダイヤ、ルート調整等)



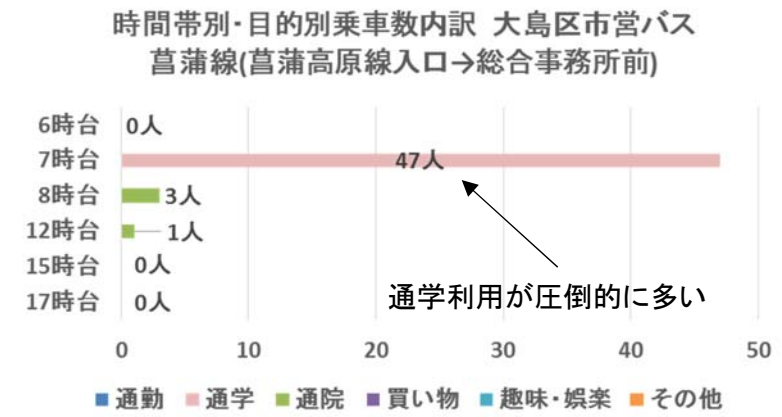


【パターンの例】

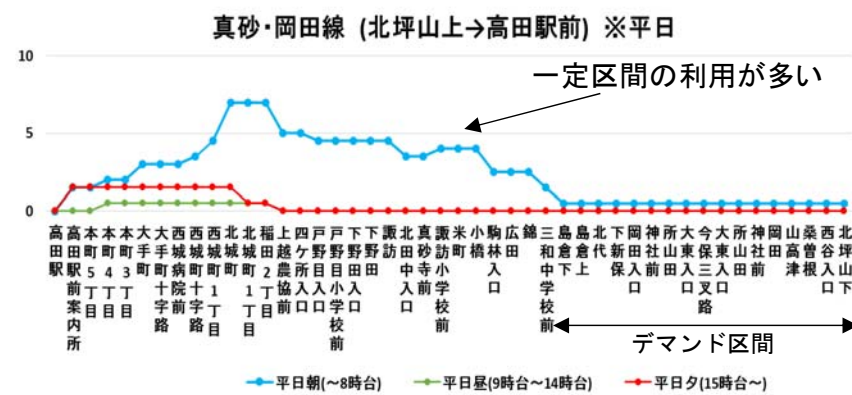
OD表 I-A



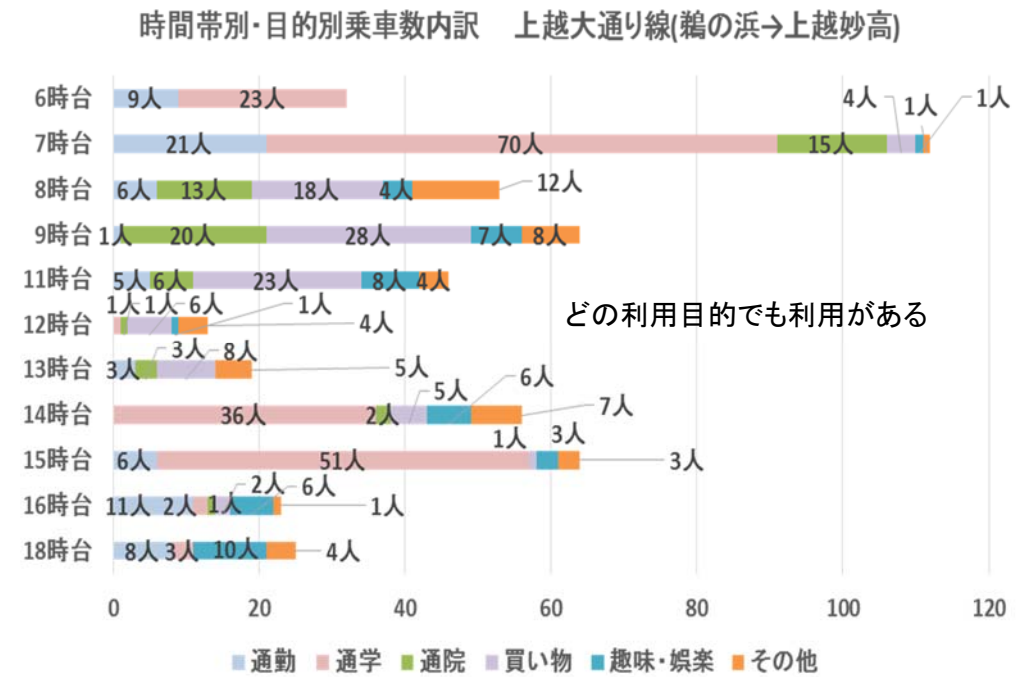
利用目的 II-A



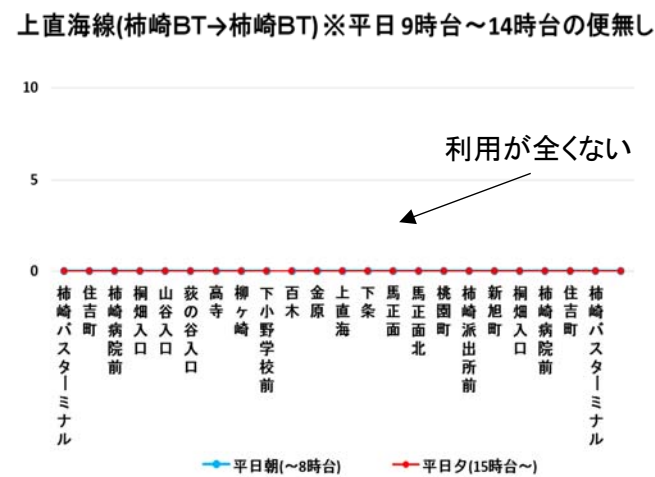
OD表 I-B



利用目的 II-I



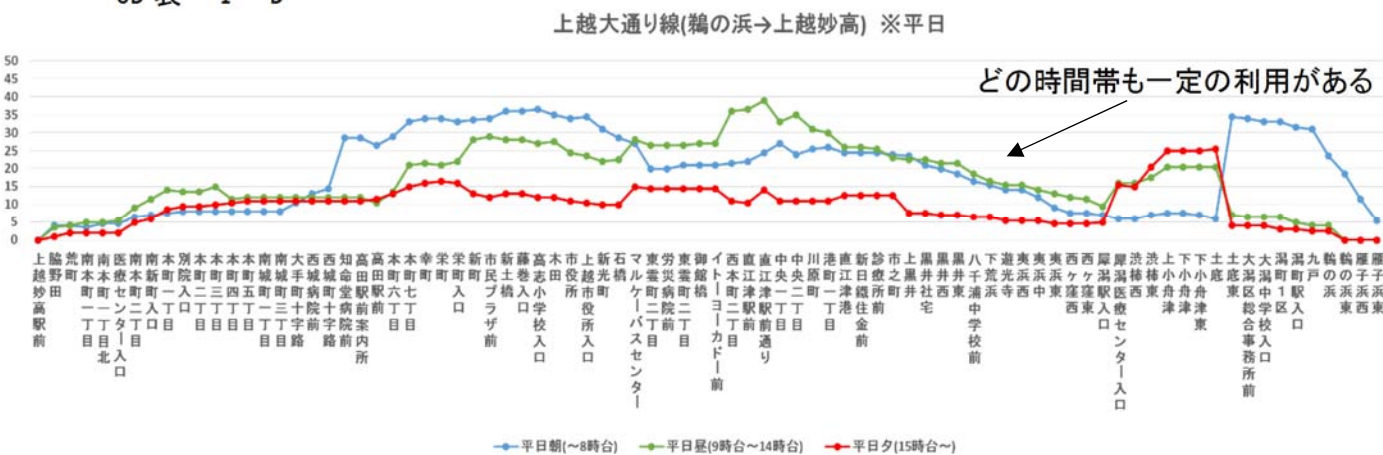
OD表 I-C



4 調査結果を受けて

- 今回の調査は、次期計画を策定する上で、バス利用者の利用実態を把握するために実施したものであるが、路線ごとに利用者層、利用目的などが異なり、路線によって使われ方が異なるという基礎データを把握することができた。この結果を基に、路線ごとの特徴を分析し、その路線に合った再編を検討していく必要がある。
- 次期上越市総合公共交通計画の策定に当たっては、今回の乗降調査の結果のほか、現在行っている地域住民への聞き取り調査等から、普段バスを利用していない人や、利用したくても利用できない人の意見も加え、それらを総合的に検討し計画に反映させていきたい。

OD表 I-D





## 平成30年度公共交通利用促進事業の進捗について

## 1 要 旨

平成30年度事業計画に基づく利用促進事業の進捗状況について報告するもの。

## 2 進捗状況（網掛け部分が今回報告対象事業）

実施時期	事業名	進捗状況	備考
7月27日～ 8月31日	夏休み小・中・高校生「バス乗車体験」キャンペーン	完了	市共催
9月15日	バスの日フェスタ2018～働く車大集合！～	完了	協議会 後援
9月15日等	小学生を対象とした公共交通啓発資料の配布 (国庫補助対象事業)	完了	
【新規】 9月16日～ 11月25日	秋の小・中・高校生「バス乗車体験」キャンペーン	実施中	市後援
10月1日	高齢者を対象とした公共交通啓発資料の配布 (国庫補助対象事業)	完了	
10月1日～	路線別の大文字時刻表の作成 (国庫補助対象事業)	実施中	
12月	降雪期前の通学・通勤者へ配布する公共交通啓発資料の配布 (国庫補助対象事業)	作製中	
2月	高校等新入生を対象とした公共交通啓発資料の配布 (国庫補助対象事業)		
3月	上越市内公共交通利用ガイドの配布 (国庫補助対象事業)	作製中	
随時	各区で取り組む利用促進事業	実施中	

### 3 実施結果

#### ○ 秋の小・中・高校生「バス乗車体験」キャンペーン

事業概要	小・中・高校生にバスに慣れ親しむ機会を提供することで、秋のバス利用促進及び将来のバス利用促進につなげる。
実施期間	平成 30 年 9 月 16 日（日）～平成 30 年 11 月 25 日（日）の間の土・日曜日、祝日（25 日間）
対象路線	頸城自動車及びそのグループ会社が運行する路線バス
事業内容	・小学生以下：1 乗車 50 円 ・中・高校生：1 乗車 100 円
利用人数	・小学生：152 人 ・中・高校生：330 人 ※10 月末現在（16 日間）の利用者数

#### ○ 路線別の大文字時刻表の作成

事業概要	中郷区及び妙高市を運行する乗合タクシー「関山ルート」最終便の減便を周知するチラシを、中郷区内に全戸配布。
実施内容	○ 中郷区 ・作成部数：1,500 部 ・配布先：中郷区全世帯 ・作成費：16,200 円 ・実施日：10 月 1 日

#### 【資料】

- ・路線別の大文字時刻表（中郷区）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **資料 3**（資料 P17、P18）

#### ○ 上越市内公共交通利用ガイドの配布（企画の変更）

事業概要	鉄道と路線バスのダイヤ改正に合わせて、時刻表と路線図等を掲載した冊子を全戸配布。													
変更の経緯	今年度発行を予定している冊子は、委託業者が広告収入等で作成費を負担することとしている。委託業者が 10 月中旬から広告募集を開始したが、「地域情報（主に観光情報）」では広告が集まらないため、「地域情報」を相談窓口や各種行政手続きなど「くらしの情報」に変更したいと申出があったことから、事務局で協議し、申出のとおり企画を変更して作成することとした。													
変更点	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品名</td> <td>上越市内公共交通利用ガイド</td> <td>上越市公共交通とくらしのガイド</td> </tr> <tr> <td>ページ数</td> <td>124 ページ (本文：120 ページ 表紙： 4 ページ)</td> <td>116 ページ (本文：112 ページ 表紙： 4 ページ)</td> </tr> <tr> <td>主な構成</td> <td>路線図 42 ページ 時刻表 37 ページ 地域情報等 29 ページ 公共交通情報 8 ページ</td> <td>路線図 36 ページ 時刻表 37 ページ くらしの情報等 32 ページ (くらしの情報等に公共交通情報も含む)</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後	品名	上越市内公共交通利用ガイド	上越市公共交通とくらしのガイド	ページ数	124 ページ (本文：120 ページ 表紙： 4 ページ)	116 ページ (本文：112 ページ 表紙： 4 ページ)	主な構成	路線図 42 ページ 時刻表 37 ページ 地域情報等 29 ページ 公共交通情報 8 ページ	路線図 36 ページ 時刻表 37 ページ くらしの情報等 32 ページ (くらしの情報等に公共交通情報も含む)
	変更前	変更後												
品名	上越市内公共交通利用ガイド	上越市公共交通とくらしのガイド												
ページ数	124 ページ (本文：120 ページ 表紙： 4 ページ)	116 ページ (本文：112 ページ 表紙： 4 ページ)												
主な構成	路線図 42 ページ 時刻表 37 ページ 地域情報等 29 ページ 公共交通情報 8 ページ	路線図 36 ページ 時刻表 37 ページ くらしの情報等 32 ページ (くらしの情報等に公共交通情報も含む)												

○ 各区で取り組む利用促進事業

・柿崎区

利用促進策	「地域の交通を考える会」と連携した公共交通のPR
事業概要	柿崎区地域協議会の部会「地域の交通を考える会」の取組について、総合事務所だより等を通じて周知し、公共交通の利用を促した。
実施内容	○ <u>第2回市内探索バスツアー</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内 容：6月に開催された第1回に引き続き、バス1日フリー乗車券を利用して安塚区や浦川原区、大島区を巡る「市内探索バスツアー」を実施</li> <li>・実施時期：10月12日（参加者5人）</li> </ul>

・板倉区

利用促進策	板倉ふれあいまつりに合わせたバス利用促進キャンペーン
事業概要	会場へ路線バスで来場した方に、大ビンゴ大会のビンゴカード引換券を進呈。
事業内容	・実施日：11月3日、4日      ・発行枚数：7枚